

農業を50歳ではじめて20年 退屈しないで 楽しい人生を送れています



《経男さん》

我々夫婦は長年、東京都で働き暮らしていました。ある頃から仕事の気分転換に7坪の市民農園を耕していたら、いつの間にか農業の面白さに魅了されたんです。本格的に取り組みたいと思うようになり、約20年前に山梨県で土地を求めて農業を始めました。

《恵子さん》

主人の様子をいつも隣で見ていたので、決断を聞いた時も「どうぞ、どうぞ」という感じでした。都内で仕事をしていた私は、山梨県に別荘ができたという感覚で1年目は週末だけ手伝いに通っていたんです。2年目からは早期退職をして非常勤となり、週の半分は都内で働き残りは山梨県で農作業をする生活を選びました。そして数年後には非常勤も辞めて主人と一緒に農業をやるようになったんです。

《経男さん》

山梨県では3.3haの農地を手掛け人も雇いながら、年間で約80品目を手掛けていました。自分が食べたいものを作りたいという思いがあったので、当初から有機農法に取り組んだんです。私の体感だと100粒の種をまくと、慣行栽培なら80採れるものが有機農法だと50以下しか収穫できません。歩留まりが悪く高く買ってもらわないと採算が合わないのが日本では中々広がりませんね。それでも、有機農法の野菜が良いというお客さんが付き、山梨県での農業は軌道に乗りました。有機野菜が国内でもっと浸透すれば国民の食の安全に対する意識が高まり、

国産の価値も上がると思うんです。値段だけではない、もっと大事なことに目を向けるきっかけの一つに有機野菜はなり得ると思います。

温暖で食べ物の美味しい場所

《恵子さん》

山梨県はとても良い場所でしたが、年を取ったし子供達も独立したので、もう少しこじんまりと農業をしたいと思うようになり7年前に長生地域へ移住しました。

《経男さん》

ここを選んだのは、母親が当地のグループホームに入っていたのが縁でした。何度も訪れており、海が綺麗で魚も美味しいし、何より冬も暖かそうなのが魅力でした。

《恵子さん》

山梨時代に住んでいた場所は、冬は氷点下10度でした。とても寒いので収穫の終わった12月中旬から苗作りの始まる2月までは都内に残っていた家で過ごしていたんです。今はもう都内の家は処分しています。おそらくここが終の棲家になるでしょう。

《経男さん》

盆や5月の連休には、子供らが孫を連れて遊びに来ます。やはり刺身が美味しいと言っていますね。私達も毎日魚を食べています。農業仲間の奥さんの実家が漁師をしていて、昨日も伊勢海老を頂いたので鍋にしました。海岸地域の文化なのか人懐っこい気質の方が多いと感じますね。

アウルファーム

喜多経男さん(69歳)

恵子さん(67歳)

千葉県長生郡睦沢町

野菜生産者



有機野菜



喜多ご夫妻が運営するアウルファームでは、2014年5月に有機JAS認定を取得しました。手掛ける野菜は、大根やネギ、小松菜、きゅうり、ナス、にんじんなどのメジャーなものから、のらぼう菜やエシャレットなどの珍しいものまで約70品目を数えます。有機農法による野菜をもっと浸透させたいという思いの喜多ご夫妻が作る野菜は地元の直売所に出荷されており、長生地域の地産地消を支えています。

販売情報 ながいき市場

所在地 / 千葉県茂原市六ツ野 3981-1

<http://www.ja-chosei.or.jp/>

nagaikiichiba

